

2023年前期始業式 要旨

○新年度が始まりました

春は新年度の始まりです。今、紹介したように多くの先生方を迎え、皆さんも中学、高校の2年生、3年生に進級して、新たな年度が始まりました。皆さん進級おめでとう。

中国の言葉で「春風得意」という言葉があります。これは中国の官吏登用試験の科挙、役人になるための試験に合格して、暖かな春の風に当たって、得意・上機嫌になっている人のことを指します。

来週10日（月）に、新入生を迎えます。新入生は、入試に合格してこれからの学校生活が待っていますから「春風得意」ということになると思います。ぜひ暖かな気持ちで11日から新入生を迎えてください。

○コロナ禍から3年

ここ3年以上、新型コロナウイルスの感染のため様々な社会的な生活が制限されてきました。特に学校での生活では常にマスクの着用や、消毒の他、感染予防のため、学校行事も様々な制限の中で実施せざるを得なかったことは、生徒の皆さんだけでなく、のびやかな学校生活を送ってもらいたいと願う先生方や、保護者の皆さんも「仕方がない」と思うものの、多くの我慢を強いられてきました。

しかし、ようやく感染状況も落ち着きを見せ、この3月からはマスクなしでの生活ができるようになり、4月からは徐々にではありますが、平常の学校生活が戻るようになってきました。まだ油断は禁物です。完全に終息が確認されるまでは、ある程度の注意をしながら、恐る恐る平常の生活を取り戻していくことになるのでしょう。

むしろ、現在の高校生、中学生の皆さんは3年間の我慢の生活が当たり前の状況になってしまったので、ではコロナ前の平常の学校生活とは何だったのかが分からない人も多いことでしょう。学校行事などについては、これから皆さんが新しい伝統を作っていくという気持ちで取り組んでください。

○ウクライナ侵攻から1年

新型コロナウイルスについては、「終わりの始まり」が見えてきましたが、もう1つの世界的な課題があります。去年の2月末からのロシアによるウクライナへの軍事侵攻については、終わりが見えません。「どこか遠い国の戦争」、「対岸の火事」ではなく、このことによって様々な影響が我々の日常生活に及んでいます。叡智を集めて解決しなければなりません。各国の指導者たちが歩み寄り、課題解決のための方向性を早く示してもらいたいです。

○現在の高校2年生からの学習指導要領

すでに中学生は新学習指導要領での学習に入っていますが、高校では3年生は旧課程、2年生は新課程での学習で、現在は過渡期になっていますが、これから求められる学力の在り方としては「主体的、対話的で深い学び」、「探究」という語が中心課題で、自ら課題を設定し、その解決を自ら図る力が求められています。

まだ、最新の調査結果が出ていないので、5年前のデータを紹介しますが、3年ごとに実施されてきたOECDの学力到達度調査（PISA）2018年実施、義務教育修了段階15歳児が対象で、日本では高校1年生相当（2020年度末、3年前に高校卒業）が調査対象でした。しかし、学力の状況はそんなに大きな変化はないと思われます。

5年前、2018年の調査結果では、数学的応用力は6位、科学的応用力は5位で、従来と同様のECD平均と比べて低得点層が少なく高得点層が多いのが特徴で、長期的傾向でもトップ水準を維持しているとのことでした。

しかし、読解力については8位から15位に後退しています。読解力の中では文章の信憑性を評価する能力を初めて図ったことと、根拠を示して自分の考えを他者に伝えるように根拠を示して説明することに引き続き課題があります。さらに情報の真偽を見極める力を図る新たな出題の正答率が特に低いとの指摘がありました。ここでも、受け身ではなく主体的に学び、自ら探究する態度や学力が求められています。

学力の基礎は読解力です。読解力がなければ、文章や課題が何を訴えているのか、何を求めているかを理解することができません。読解力を高めるには早道はありません。多くの書物、本、文章を読むことで読解力は自然と身についてきます。ですから皆さん、多くの本を読みましょう。また、「読解力」という文字をひらくと、「読み解く力」になります。身に付けた読解力から、「時代を読み解く力」、「社会を読み解く力」、「世界を読み解く力」を身に付けてほしいと思います。

また、我々教師は生徒の皆さんに「主体的に学び探究する態度」を育てることが求められています。学力とは、単に知識理解、知識の集積だけではなく、社会の変化に柔軟に適應できる学力、「生きる力」になるものです。

東洋大学設立の理念は井上円了先生の「諸学の基礎は哲学にあり」に依拠しています。私が考えるに、哲学は“古くて新しい学問”ということになるでしょう。東洋大学ゆかりの哲学堂の四聖、四人の聖人は、孔子、釈迦、ソクラテス、カントとされています。特に、孔子の「論語」、ソクラテスの問答法、「産婆術」について考えると、孔子、ソクラテスにあっては、師と弟子との対話、問答によって真理を導き出す姿勢を貫いています。教師が教え込むのではなく、先生と生徒の間での問答によって生徒が自ら真理に近づいていくこと。そういう姿勢を持っていくことが必要でしょう。

SDGs（持続可能な開発目標、持続可能な社会実現）への対応として、本校では「読み解く力」を身に付けて「地球規模で思考のできる人材の育成」を大きな目標にしたいと思います。

新年度はじめの心構えとして始業式の言葉といたします。